

当院における乳がん検診の現状

西美濃厚生病院 ○中村有美 岡田浩幸 日比英彰 太田明宏 高木理光
野田秀樹 安部威彦 山田正 橋本英久 藤野明俊

[はじめに]

近年、生活習慣の欧米化により本邦においても乳がん罹患率は第1位となり、その死亡率も増加傾向にある。それに伴い乳がん検診を行う施設も増加し、その有用性も高まってきた。当院においても、検診センター設立に伴い、平成19年度より施設内において乳がん検診が開始された。

今回、当院における乳がん検診の現状を把握し、問題点についても検討したので報告する。

[対象と方法]

平成19年度～21年度（11月現在）に当院検診センターで乳がん検診を受診した30～85歳までの1739名（平均年齢52.1歳）を対象とし、MMG、US、視触診の3者併用検診で行った。検診対象者は30歳以上で、30代はUSと視触診のみとする。

マンモグラフィの読影方法は一次読影を岐北厚生病院に依頼し、二次読影を当院外科医が読影する。

[結果]

受診者数は19年度525人、20年度608人、21年度606人（11月現在）、受診率は19年度から順に68%、85%、59%となった。要精検率は3年間で14%となり、全国平均よりやや高い値となった。精検受診率は、21年度を除き、19年度、20年度ともに92%と高値が得られた。3年間で発見された乳がんは1739人中3人で、がん発見率は0.17%となった。

[問題点]

精検率が15%弱と全国平均と比べてやや高い。

マンモグラフィにおいてFADでカテゴリー3に分類されるものが多く見られた。

エコーで腫瘍と正常組織との鑑別が難しいことがあり、悪性疑いとして捉えられている。

[まとめ]

養老町の検診受診率は全国平均と比べて高かった。また、精検受診率は調査途中である21年度を除き19、20年度では約90%で、この水準の維持が大切である。

要精検率がやや高く、検診の精度を上げるため全国平均並みの要精検率になるように今後検討を行う必要がある。